

滋賀県と アール・ブリュット

滋賀県では、戦後まもなく「日本の障害者福祉の父」と呼ばれる糸賀一雄氏や田村一二氏、池田太郎氏たちにより、近江学園で粘土を利用した造形活動が始まります。

「この子らを世の光に」とは、糸賀一雄氏が残した言葉ですが、障害のある人が見せてくれる様々な気付きやふるまいを光とし、私たちが導かれる形で世の中を良くしていく、生きていくという意味が込められています。近江学園で始まった造形活動は、その思想とともに県内の福祉施設に受け継がれ、多くの人びとが関わる中で、アール・ブリュットという領域で評価される作品も数多く見いだされてきました。



造形活動の様子(右:糸賀氏)



パリ「アール・ブリュット・ジャポネ展」オープニングの様子

—滋賀で生まれ育まれてきた
アール・ブリュット

- **1946**
障害のある児童等の入所・教育・医療施設「近江学園」の創設
翌年より施設内での造形活動の取り組みを開始
- **1954**
滋賀県の福祉施設が関わる展覧会が始まる
- **1981**
「土と色展」の開催
滋賀、京都の知的障害のある人たちの造形活動とその作品を発表
- **2004**
「ボーダレス・アートギャラリーNO-MA」開設
障害のある人の表現を一般のアーティストの作品とともに展示
※2007年、博物館相当施設の指定を受け、滋賀県社会福祉事業団(現・社会福祉法人グロー)が「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」に改称
滋賀県施設合同企画展「ing...～障害のある人の進行形～」が始まる
県内複数の福祉施設が企画する展覧会を開始する
- **2008**
NO-MAと海外美術館との連携事業が始まる
アール・ブリュット・コレクション(スイス・ローザンヌ市)での「JAPON展」の開催／アール・ブリュット・コレクションの収蔵作品を展示する
「アール・ブリュット—パリ、abcdコレクションより—」を開催
滋賀県立近代美術館でフランスの非営利団体abcdの貯蔵品から約60の海外作家を展示・紹介
- **2010**
「アール・ブリュット・ジャポネ展」開催
パリ市立アル・サン・ピエール美術館で日本のアール・ブリュットをテーマにした展覧会を開催、滋賀県社会福祉事業団(現・社会福祉法人グロー)が日本側事務局を務める
- **2011**
障害のある人による公募作品展「びかつtoアート展」が始まる
県内の障害のある人の造形作品を広く公募し、作品展を開催
- **2012**
障害者の著作権等保護ガイドラインを策定
「障害福祉サービス事業所の造形活動における作品の著作権等の保護のための指針 ～著作権等保護ガイドライン～」の策定
アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター(略称:アイサ)の設置
「ART BRUT FROM JAPAN」ヨーロッパ巡回展の開始
ヨーロッパ7カ国(予定)を巡る展覧会／滋賀県在住作家多数出展
- **2013**
アール・ブリュットネットワークの立ち上げ
滋賀県在住作家、国際美術展に出展
第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展に滋賀県草津市在住の澤田真一氏が出展
「新生美術館基本計画」を策定
アール・ブリュットの発信拠点として滋賀県立近代美術館をリニューアルする方針を明記
- **2014**
アール・ブリュット作品の調査を実施
滋賀県立近代美術館が、文化庁の委託を受け、全国の作品調査を実施

滋賀県の アール・ブリュット作家紹介

index



鎌江 一美
1966年～ 06



古久保 憲満
1995年～ 07



比嘉 野歩治
1978年～ 08



伊藤 喜彦
1934～2005年 09



西川 智之
1974年～ 10



石野 光輝
1988年～ 11



谷口 ちよ子
1951年～ 12



畑名 祐孝
1976年～ 13



藤野 公一
1944年～ 14



大江 正章
1938年～ 15



戸次 公明
1952年～ 16



吉川 秀昭
1970年～ 17



沢井 実
1941年～ 18



木村 茜
1983年～ 19



久保田 洋子
1977年～ 20



萩野 トヨ
1938年～ 21